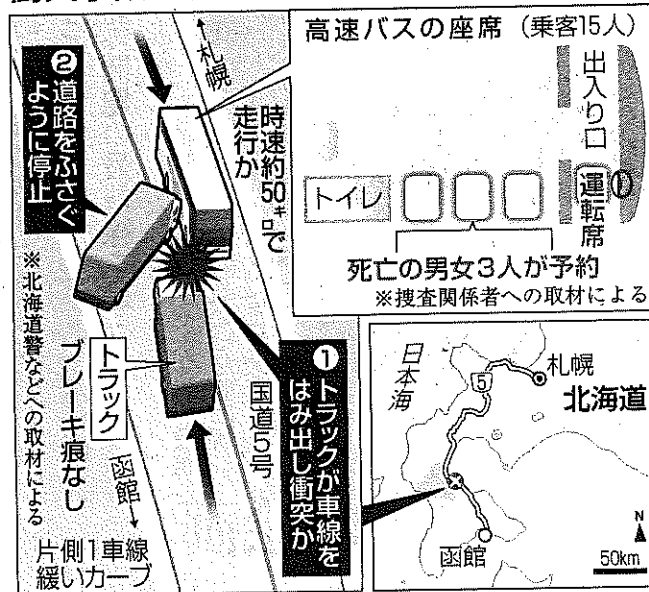


北海道5人死亡事故1週間

減速せず直進、原因解明へ

衝突事故の現場状況(八雲町野田生)



北海道八雲町でトラックが都市間高速バスに衝突し、5人が死亡した事故から25日で1週間となった。高速バスは広大な土地に多数の自治体が点在する北海道で欠かせない「市民の足」。多くの乗客の安全をどう守るか。道警はトラックが減速せずに対向車線にはみ出したとみて、自動車運転処罰法違反(過失致死傷)容疑で捜査。原因解明を急ぐ。

事故は18日午前11時55分ごろ、八雲町野田生の国道5号で発生。トラックは緩やかな左カーブで中央線を越えバスに正面衝突し、15人の乗客のうち右前方の席にいたとみ

られる3人と、双方の運転手が死亡した。現場にトラックのブレーキ痕はなく、バスは制限速度とほぼ同じ時速約50キロで走行していたとみられ、車体はいずれも大破した。

高速バスは札幌市発着だけで50以上の路線があり、鉄道では行きづらい小規模な町も含まれる。事故に遭った「高速はこたて号」は札幌市と道内人口3位の函館市を往復。同区間はJRの特急

も走るが、料金は格段に安い。

一方、トラックは養豚会社「日本クリーンファーム」(青森県おいらせ町)が運行し、食肉処理場に豚を運搬中だった。道警は19日に八雲町にある事業所を家宅捜索し、運行管理などに問題がなかったかどうかも調べる方針。捜査幹部は「物証



などから探るしかない」と話す。

現場を含む町内の国道5号は見通しが良いためスピードを出しやすく、地元では事故が多いことで知られる。近くにある中学校の教頭によると、遠回りでも国道を迂回する人もいるといい「生徒には注意を呼びかけている」と話した。

道警の捜査は始まったばかりだが、バスを運転していた興膳孝幸さんの

30年来の友人という歯科医の奥明仁さんは期待する。「原因を究明し、対策をきっちり立ててほしい。それが本当の意味で故人のためになる」

事故から1週間となった25日、道警は現場付近で速度違反の取り締まりを実施し、八雲町内の関係団体とともに安全運転を呼びかけた。事故現場に花束を持参し、手を合わせる人の姿もみられた。